

## 東北初のICT舗装 現場見学会を開催

道建協

日本道路建設業協会（西田義則会長）は、国土交通省東北地方整備局管内で大成ロテックが施工する羽入地区舗装工事（山形県東根市、発注Ⅱ東北整備局山形河川国道事務所）でICT舗装現場見学会を開いた。写真。ICT舗装技術の普及を目的として、昨年から実施しているもので、同整備局管内で初の開催となった。会員企業から約20人が



参加した。

見学会では、ICT舗装工事の現場概要を始め、TLS（地上型レーザー扫描仪）の測定方法や管理方法などを中心に、ICT舗装工の一連のプロセスである①3次元起工測量②3次元設計データ作成③ICT建設機械による施工④3次元出来形管理などの施工管理⑤3次元データの納品—について、施工を担当する大成ロテックの畑中祐輝現場代理人らが解説した。

当日は、雨天により午後から予定していた現場でのTLS計測の実演は中止となったものの、座学によりTLSの測定方法や点群データの出来形評価などの講習を行った。

また、ICT舗装は取り扱うデータ量が多いため対応できる作業環境が必要となるなど、今後の課題も指摘された。TLSは、ICT舗装工事で必須となる管理方法とあって、質疑では現場での実施状況や計測時の留意事項などについて、参加者から熱心な質問が上がった。

実際にICTを担当した大成ロテック東北支社工事部の小笠原圭純担当からは、同現場で得られた成果や取り組みで苦労した点などの発表があり、当該工事以外の今後のICT舗装工事にも、今回のノウハウを生かし、iConstructionの推進を図っていききたいとの意見があった。